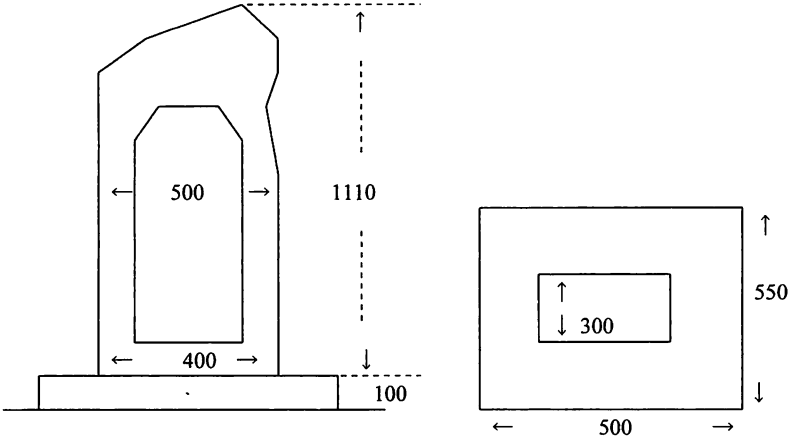
表紙解説「 山 神 塔 」

この「山神塔」は、佐伯市臼坪地区のやや高台に鎮座する塔である。
前面には、文政十四年（１８３１）辛卯歳正月の銘が彫られている。
近くには「山の神」の祠もある。
地域の人々は「山の神様」として祀っているという。
大きさは、下図のような大きさである。

国史大事典によると、山の神は古典神話の大山祇神（だいやまずみかみ）であると記載されている。
大山祇神は、木花開耶姫（このはなさくやひめ）の父と伝えられている。
この神を祀る古社に伊予大三島神社（大山祇神社）があって、分社の伊豆三島大社とともに知名度が高いと言われている。

一般民間に信仰される「山の神」は、公称はこの大山祇神でも神格としては、まったく別個の「山岳に鎮まりあるいは山林を領する神」とみなされている。
農民の間では冬には山の神として山中にあり、夏は里に降って田の神になるとという神去来の信仰が行われる。
山仕事に従う杣（そま）、炭焼き、木地師、猟師などは田の神と言わず、山中常在の神という。
何れも、小祠や老樹に注連縄（しめなわ）をかけた斎場を作り、年に一、二回、冬の初めや終わりに日を定めて神酒、供物を捧げて祭りを行うという。



（写真撮影：高木秀明）